



「お魚大使」さかなクンが描いた「三陸のお魚たち」

※7頁に特別インタビュー記事があります。

CONTENTS

平成24年 年頭所感	2
水産庁長官 佐藤 正典	
平成23年度全国資源評価会議について	3
増殖推進部 漁場資源課	
みなみまぐろ保存委員会(CCSBT)第18回年次会合の結果について	6
資源管理部 国際課	
回遊魚 新年スペシャル	7
農林水産省「お魚大使」さかなクン	
平成23年11月、12月分のプレスリリース	8

平成24年 年頭所感

水産庁長官 佐藤 正典



平成24年新春を迎えるに当たり、所感の一端を申し述べ、年頭の御挨拶とさせていただきます。

まず、昨年3月11日に発生した東日本大震災によってお亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、ご遺族と被害に遭われた方々に心からのお見

舞いを申し上げます。今回の震災により、岩手県、宮城県、福島県をはじめとする太平洋沿岸の地域において、漁業者や地域住民の方々の尊い命が失われるとともに、水産業を支えるあらゆる生産基盤に甚大な被害が発生するなど、我が国水産業全体に未曾有の被害がもたらされました。農林水産省としては、この震災からの復旧・復興が最も重要な課題であると認識しており、被災した水産関係者の方々が、一刻も早く困難を乗り越え、将来への希望と展望をもって水産業を再開できるよう全力で取り組んでまいります。

元来、我が国の国土面積は世界で第61位と大きくはありませんが、200海里水域の面積でみると、世界第6位、その広さは、国土面積の約12倍にも及び、日本の位置する北太平洋の西部海域は非常に資源に恵まれた海域であり、我が国水産業は非常に高い潜在能力を有しております。

しかしながら、近年は、資源状態の低迷、漁場環境の悪化、国際的な資源管理の強化、漁業者の減少・高齢化、燃油価格の高騰、消費者の魚離れ等我が国水産業を取り巻く状況は厳しいものになっているところです。

農林水産省としては、これらの状況に対応し、我が国水産業が、安全・安心な水産物を将来にわたって国民に安定的に供給するという、本来の役割を果たせるよう、今春、新たな水産基本計画及び漁港漁場整備長期計画を策定し、次の観点から施策をさらに推進していくこととしております。

第一に、東日本大震災からの復旧・復興です。平成23年度補正予算や平成24年度予算による切れ目ない支援を行い、漁船、養殖施設、加工施設、漁港等の早期の復旧・復興に努めます。

第二に、適切な資源管理と経営安定のための施策です。平成23年度から、計画的に資源管理や漁場の改善に取り組む漁業者を対象とする、漁業共済と積立ぶらすの仕組み

を活用した新たな「資源管理・収入安定対策」と、漁業経営に大きな影響を与える燃油等の価格高騰に備えた「コスト対策」とを組み合わせた資源管理・漁業所得補償対策を開始したところであり、平成24年度も引き続き、この対策の着実な実施に努めてまいります。

また、漁業構造改革総合対策事業により収益性の高い操業・生産体制への転換を促進するとともに、設備資金や運転資金の金利負担の軽減（実質無利子化）、無担保・無保証人型融資等を促進します。

第三に、漁業・漁村の六次産業化の推進と水産物の消費拡大のための施策です。水産物の付加価値の向上や漁家の所得向上、雇用の確保のため、漁業者が生産のみならず加工・販売にまで進出する漁業・漁村の六次産業化の取組を支援します。また、HACCP導入支援による衛生管理体制の強化等により、新鮮で安全な国産水産物を消費者に届け、水産物の消費拡大を図ります。

第四に、漁村の活性化のための施策です。漁村における生活環境の立ち遅れや漁村集落の人口減少・高齢化に対応し、生活環境の向上による安全で活力ある漁村づくりを推進するとともに、再生可能エネルギーの活用や離島漁業再生の取組を促進します。また、東南海・南海地震等を想定し、全国的な漁村・漁港における防災・減災対策等に取り組んでまいります。

第五に、水産業に関する技術開発と増養殖の振興のための施策です。水産業に関する技術開発として、有害生物による漁業被害の防止、漁船の安全性の向上等の技術開発に関する取組を支援します。また、資源評価の精度を高める調査研究、種苗供給を輸入に依存しているカンパチや国際的に漁獲量が制限されているクロマグロ等の重要な水産生物の供給の確保を促進します。

第六に、国際交渉についてです。世界的な漁業生産量の増加に伴い、国際的な漁業資源の管理が重要な問題となっており、漁業に関する国際的な交渉については、今後とも、科学的根拠に基づく資源管理が重要であるとの立場から交渉に臨んでまいります。

このような施策の推進により、東日本大震災からの復旧・復興とともに、水産業と漁村の更なる発展に努めてまいりますので、御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様方の御健勝と御活躍を祈念申し上げまして、私の新年の御挨拶とさせていただきます。

平成23年度全国資源評価会議について

増殖推進部 漁場資源課

はじめに

去る10月5、6日、農林水産省7階講堂において全国資源評価会議が開催されました。この会議は、水産庁が独立行政法人水産総合研究センター等（以下「水研センター」）に委託し作成した我が国周辺の主要漁業対象種（TAC対象魚種：8魚種19系群）の資源評価を、関係者をはじめ広く国民の皆様様に説明し理解を得ることを目的として開いているものです。

1 資源評価とは

我が国は平成8年に国連海洋法条約を批准し排他的経済水域を設定しました。同条約では、沿岸国が自国の排他的経済水域内の水産資源の適切な保存管理措置を講ずることが定められています。

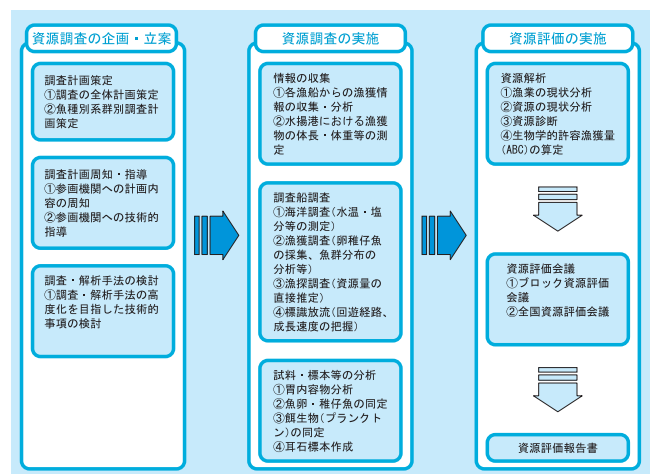
同条約の批准により、我が国周辺水域において、漁船の隻数、操業期間、操業区域等の漁獲能力、漁獲努力量の規制を中心とする従来の漁業管理に加え、採捕量そのものに着目した漁業管理を図ることが必要となっていたことから、同年、「海洋生物資源の保存及び管理に関する法律（いわゆる資源管理法）」が制定されました。

これに伴い、平成9年より漁獲可能量（TAC）制度が開始されましたが、TACを設定するに当たっては、資源ごとの動向に関する事項及び他の海洋生物資源との関係等を基礎とすることとされています。この「基礎」の意味するところは国連海洋法条約という「自国が入手することのできる最良の科学的証拠」であり、これに該当するものが私たち毎年作成している「資源評価」です。

2 資源評価の進め方

冒頭で申し上げたとおり、資源評価の実施に当たっては水産庁が水研センターに事業を委託しており、水研センターでは現在我が国周辺水域に分布している主要な水産資源のうち本年度においては52魚種（TAC魚種であるマアジ、マイワシ、マサバ、ゴマサバ、サンマ、スケトウダラ、ズワイガニ、スルメイカを含む）を84の系群（同じ種類でも産卵場、分布、回遊等を異にする集団）に区分して資源評価を実施しています。

評価対象となる資源は一般に広範囲に分布、回遊するため、資源調査・評価に当たっては、漁獲量、漁獲努力量といった漁獲情報に加え、対象資源の分布・回遊状況に応じて適切な時期や場所で調査船調査を実施したり、市場に出



資源評価の進め方

向いて漁獲物の体長や体重などを測定したりすることが必要です。また、対象魚種によっては音響探査や遺伝子情報の活用などの最先端の技術を導入したり、複数の調査船が漁場内の資源を一斉に調査するような大規模な調査も実施しています。

これらを計画的かつ効率的に実施する必要があり、①調査の企画・立案、②調査の実施、③調査結果に基づく資源評価の実施、という過程を通じ、都道府県水産試験研究機関等の参画・連携の下で資源評価が行われています。



プランクトンネットによる卵稚仔調査

このような調査結果を解析した上で、毎年の資源水準や動向を判断し、資源評価を行っておりますが、その内容は、「生物学的特性」、「漁業の特徴」、「漁獲の動向」、「資源評価法」、「資源状態」、「管理方策」、「期待される管理効果」、「資源変動と海洋環境との関係」などから構成されています。

3 資源評価会議について

「2 資源評価の進め方」で紹介した工程を経て、水研センターでは7～9月中旬に全ての魚種・系群についての資源評価（案）を作成します。

この資源評価（案）は、選択した評価手法や使用したデータの使い方の妥当性なども含め、データの提供等で参画・連携している都道府県水産試験研究機関等の関係者、外部の資源研究者などとの意見交換を行う機会として「内部検討会」を行い、そこでの議論を経て、漁業者等から広く意見を聴くために全国6箇所ですべて「ブロック資源評価会議」を実施しています。

そして最終的に主要な魚種の資源評価（案）を説明・報告する場として「全国資源評価会議」を開催しているものです。

また、全国資源評価会議を開催する前に同会議で説明・報告される魚種についての資源評価（案）についてパブリックコメントを行い、広く意見を募集することとしています。

本年度におけるこれら一連の会議、パブリックコメントは以下の通りに実施されました。

○ブロック資源評価会議

- | | |
|------------------|----------|
| ①中央ブロック（サバ類以外） | 7月26～27日 |
| クイーンズフォーラム（神奈川） | |
| ②西海ブロック | 8月2～3日 |
| ワシントンホテル（長崎） | |
| ③スルメイカ | 8月18日 |
| クイーンズフォーラム（神奈川） | |
| ④瀬戸内海ブロック | 8月25～26日 |
| チューリッヒ東方2001（広島） | |
| ⑤東北ブロック | 8月29～30日 |
| 八戸プラザホテル（青森） | |
| ⑥北海道ブロック | 9月1～2日 |
| 釧路全日空ホテル（北海道） | |
| ⑦中央ブロック（サバ類） | 9月5日 |
| クイーンズフォーラム（神奈川） | |
| ⑧日本海ブロック | 9月6～7日 |
| ガレソンホール（新潟） | |

○パブリックコメント（TAC魚種） 9月21～27日

○全国資源評価会議（TAC魚種） 10月5～6日
農林水産省7階講堂（東京）

なお、上記会議及びパブリックコメント以外にも特に期間は定めず、必要に応じて漁業者等へ資源評価の説明、意見交換会を開催しており、平成23年度はブロック資源評価会議を含め37件（H23.9.30現在）の説明会等を行っております。

4 23年度資源評価結果の概要

本年度のTAC魚種の評価では、資源状態が高位水準にあるのはゴマサバ（太平洋系群）、スルメイカ（秋季発生系群）の2系群（前年同）であり、中位水準にあるのはマアジ、マサバ（対馬暖流系群）、ゴマサバ（東シナ海系群）、サンマ、スケトウダラ（太平洋系群）、ズワイガニ（太平洋北部系群、日本海系群、北海道西部系群）、スルメイカ（冬季発生系群）の10系群（前年同）でした。低位水準にあるのは、マイワシ、マサバ（太平洋系群）、スケトウダラ（日本海北部系群、根室海峡、オホーツク海南部）、ズワイガニ（オホーツク海系群）の7系群（前年同）でした。

これら評価結果の詳細は水産庁ホームページ*をご覧ください。

なお、全国資源評価会議では出席者から、資源の水準・動向の判断基準や、周辺国の漁獲データ、海洋環境と資源変動の関連に関する質問などがありました。頂いた意見については会場において説明・回答するとともに、今後、よりよい資源評価を行うための参考にさせていただきます。



全国資源評価会議のようす

5 資源変動と海洋環境

水産資源の多くは海洋の複雑な生態系の中で多様な要因が影響して資源変動していると考えられていますが、その要因や関連性については必ずしも明確に解明されていません。

資源変動メカニズムと海洋環境の関係を明らかにし、中

長期的な資源変動の把握や資源変動予測を行うことを目的に、前年度までの「資源動向要因分析調査事業」の成果を踏まえて、今年度より引き続き主要魚種について、「資源変動要因分析調査事業」を実施しているところです。

今回の全国資源評価会議においては、今年度が事業の初年度となることから、同事業で行っている各課題毎に①研究の要点②前事業の主要成果③解明すべき仮説④研究目標を取りまとめ、ご報告させていただきました。

本事業で得られた成果は資源評価に順次取り入れ、精度向上に活用していくとともに、今後とも全国資源評価会議でご紹介して行きたいと思っています。

資源変動要因分析調査

—平成23年度—

なぜ加入量が多い年と少ない年があるのか？

平成22年までの資源動向要因分析調査の成果を発展させ、資源評価に貢献



6 水産資源の全体状況

現行水産基本計画において、水産資源の動向等に関するわかりやすい情報提供が求められていることから、我が国周辺水域における水産資源の全体状況について、昨年までの資源評価などを基にいくつかの指標群にまとめて分析した結果を発表しました。

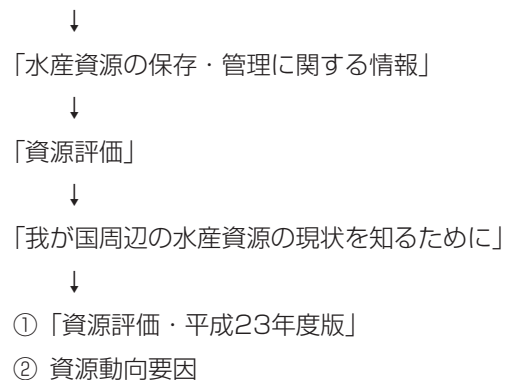
この結果、評価対象魚種の資源量は総じて横ばいでやや増加の方向にあり、資源水準は低位の割合が近年減少しており、総漁獲量は近年400万トン強でほぼ安定している。しかし、漁獲圧は、改善方向にあるものの小型魚の保護など効率的な資源利用に課題があるといった評価となりました。

昨年よりこうしたとりまとめを開始しましたが、水産資源の状況を全体として表すことは難しいことから、引き続き検討していくこととしています。

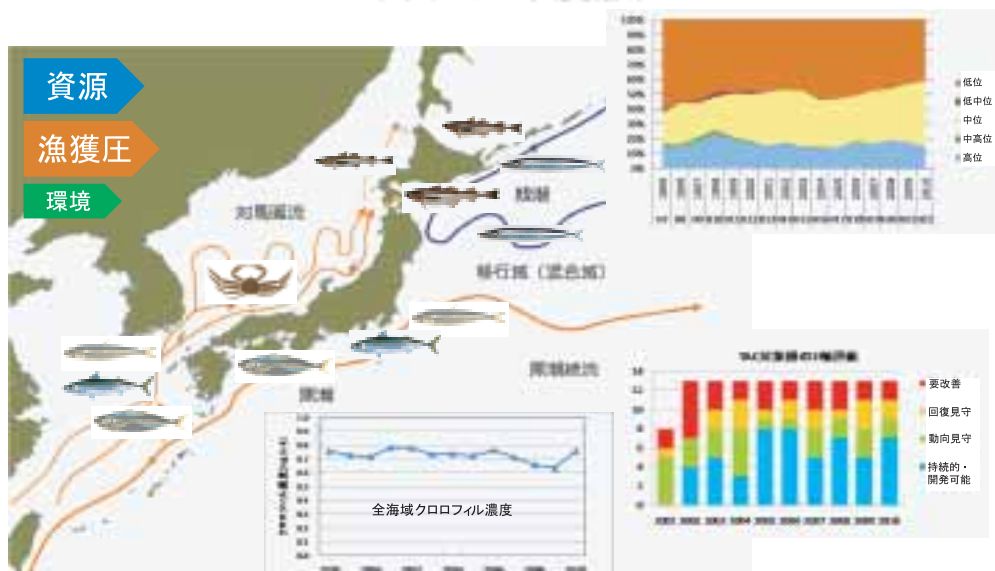
以上の通り、資源評価は毎年、多くの方々の参画の下で作成されるものであり、オープンな場での議論を通じ、より信頼される資源評価にしていきたいと考えております。

*水産庁ホームページにおいては、①52魚種84系群の評価結果及び②資源動向要因分析調査の概要を掲載しております。

水産庁HP(<http://www.jfa.maff.go.jp/>)「分野別情報」



我が国周辺水域における水産資源の全体状況 (平成22年度版)



みなまぐる保存委員会（CCSBT） 第18回年次会合の結果について

資源管理部 国際課

はじめに

2011年10月10日から13日まで、バリ（インドネシア）において、みなまぐる保存委員会（CCSBT）第18回年次会合が開催されました。会議には、日本、オーストラリア、ニュージーランド、韓国、インドネシア、台湾（台湾を正式に議論に参加させる枠組である拡大委員会のメンバー）の他、協力的非加盟国として、南アフリカ及びフィリピンが参加しました。我が国からは、香川水産庁資源管理部審議官（日本政府代表）の他、水産庁、外務省、(独)水産総合研究センター、業界の関係者が出席しました。

みなまぐる保存委員会は、1994年に設立され、総漁獲可能量及び締約国等に対する割当量の決定やその他の保存措置の採択・実施を通じて、ミナミマグロの保存及び最適利用の確保を図っています。本年の年次会合においては、2012年～2014年のミナミマグロ漁獲可能量（TAC）、遵守措置の強化などが合意されました。

主な結果概要

1. 2012年～2014年の漁獲可能量と各国別割当量

ミナミマグロの産卵親魚資源が低迷している一方で、若齢魚が増加しているとの科学委員会の資源評価結果などを踏まえ、ミナミマグロのTACを今後3年間、段階的に増加させ、2012年に10,449トン、2013年に10,949トン、2014年には12,449トン（ただし、2014年については、2013年の科学委員会でTACの増加が妥当と認められた場合）とすることを決定しました。

また、このTACの各メンバーへの割当に合意しました。

表 総漁獲可能量と各メンバー別割当量（2012-2014年）

国名	2012	2013	2014	(参考) 2011
日本	2,519t	2,689t	3,366t	2,261t
オーストラリア	4,528t	4,698t	5,147t	4,015t (4,270tから自的削減)
韓国	911t	945t	1,036t	859t
台湾	911t	945t	1,036t	859t
インドネシア	685t	707t	750t	651t
ニュージーランド	800t	830t	909t	709t (754tから自主的削減)
フィリピン	45t	45t	45t	45t
南アフリカ	40t	80t(*1)	150t(*1)	40t
EU	10t	10t	10t	10t
計	10,449t	10,949t	12,449t(*2)	9,449t

*1 配分の増加は、南アフリカがCCSBTに加盟することを条件とする。

*2 科学委員会が妥当と認めた場合。

ミナミマグロTACの段階的な増加により、日本への割当量も段階的に増加し、2012年に2,519トン、2013年に2,689トン、2014年には3,366トンが割り当てられました（表参照 なお、現在（2011年）の割当量は2,261トン）。

我が国は従来より、科学的根拠に基づき、ミナミマグロ資源の回復を図りつつ、資源を有効利用するとの立場にたつてCCSBTに参加しています。今回のTACの増加は、CCSBTにおけるこれまでの資源管理の努力の成果と考えられます。一方で、科学的に必要であれば、これに従いTACを削減するなど、今後も科学的根拠を十分に尊重してミナミマグロ資源管理に取り組むことが最も重要と考えています。

2. 遵守措置の強化

昨年の年次会合で、計画案を作成することが決定した「CCSBT遵守計画」などが合意されました。この遵守計画は、国別漁獲割当や漁獲証明制度（漁獲から市場流通までの実態を一つに文書に記入し透明性を確保する制度）などの、委員会で決定された保存管理措置について、各メンバーの責任を明確にし、確実な実施を促進するものです。

3. その他

次回の年次会合は、2012年10月1日～4日に、日本で開催することになりました。



昨年の2月21日に、鹿野農林水産大臣から「お魚大使」に任命されたさかなクン。

そのときは、「日本の漁業、魚食のありがたさを今まで以上に大事にして、伝えていきたいです。」と大使就任の抱負を語ってくれました。

それから約一年が過ぎようとしています。さかなクンに今年の活動を振り返っていただきました。

Q 「お魚大使」となって、一番印象に残ったことはなんでしょう。

3月11日に東日本大震災があって、それから、三陸の被災された漁師さんのための「がんばろう漁業募金」*に参加させてもらったことです。そして、4月のはじめに三陸沿岸に実際に行くことができ、漁師さんの船に乗せていただくことが嬉しかったです。

※JF全国漁業協同組合連合会等を中心とした漁業団体が実施

Q 三陸を中心に被災地訪問をされています。現地での活動について教えてください。

実際に現地で漁師さんに船に乗せていただいたり、海に潜らせていただいています。そして、小学校など皆さんが集まっているところにおうかがいして、「潜ったらアイナメとダンゴウオが元気な姿を見せてくれましたよ」と話をしたり、獲れたお魚をおいしくいただいたりしています。

震災後は、岩手県の久慈市、宮城県の南三陸町の2か所でもぐらせていただきました。久慈はこれまでも7年間通って、定置網のお船に乗せていただいていたのですが、潜ったのは震災後が初めてです。潜ったらガレキがいっぱいあって、船も沈んでいて、それを目の当たりにして、ほんとにすごい津波だったのだと切実に思いました。でも、うれしいことに、マナコやイトマキヒトデ、アイナメたち、それからクロソイの赤ちゃんたち、50センチぐらいもある巨大なカレイに漁港の海の中で出会えました。あとワカメも岸壁でたくさん育っていて、うれしく思いました。

南三陸町では10月に潜りました。ここは今までも潜ってきていたので、震災後大きく変わったところがすぐわかりました。底の砂や泥が巻き上がったたりして、透明度が低くなっているのが、海藻が育っていないんです。岩の上のほうのアラメは育っていて、下に行くほど小さくなるのは濁りのせいだそうです。光が届かないから、光合成できないようです。アイナメ、オコゼカジカ、ダンゴウオなどたくさんの生き物に会うことができたんです。漁師さんは、津波に船も家も持っていかれたのですが、「私たちは海に恨みはありません。だって、海と一緒に生きているんだから」ってたくましくお話をされて感動いたしました。

Q 「三陸の魚」のイラストを描かれました。この絵に込められたメッセージを教えてください（表紙参照）。

3月11日の震災を受けて、皆さまに絵を描かせていただきたいと強く思いました。さかなクンが三陸で出会ったお魚たち、マンボウ、サバ、ネズミザメ、サケ、トビウオ、ヨシキリザメ、シイラ、ボラ、アカマンボウ、ウマズラハギ、ゴマフグ、マダラ、ヒラメ、ヒメジ、ミズダコ、アイナメ、ダンゴウオ、クチバシカジカ、アンコウ、コブダイ、ホシエイ、マアナゴ、キュウセン、マコガレイ、マダイ、パイ、カニ、エビ、ホタテガイを描きました。

サケはオスとメスですが、サメは親子！アイナメは黄色はオス、茶色はメスで夫婦です！

Q お休みの時はなにをされているのですか？

まず親方の定置網漁船にのせていただいて、朝から感動ですね。昨日もひょこっと館山に帰れたので、定置網漁船に乗せていただいたらブリやマアジがいっぱい入っていました。ヒラソウダはお刺身でいただくとギョギョ美味です！

Q ところで、成魚だそうですが、お酒は飲めますか？

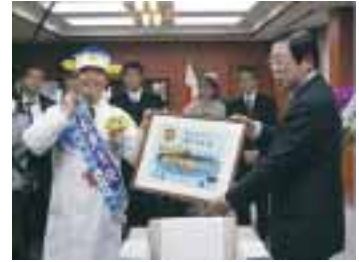
はい！漁師の皆さまとの集まりでよく梅酒を飲みます。おつまみは塩辛でギョざいます。鮮度のいい、スルメイカで作ると最高でギョざいます。冷凍イカですと切りやすいし、船上冷凍なので鮮度もバツグン！しかもお買い得です。

Q 最後に、新しい年はどんな年にしたいですか？

今まで以上に勉強して、漁業されている地域をまわりたいです。いま特に行きたい所は、ギョトウ（五島）列島でギョざいます！まだ行ったことないんです。ギョトウ列島でたくさんのお魚に出会いたいです！！

ありがとうございました。今年も活躍を期待しています。

誠にありがとうございます！ハッピーです！



2月21日、お魚大使就任式で鹿野農林水産大臣へクニマスの絵をプレゼント



3月28日、東京・有楽町の駅前で漁業者支援の募金活動



プレスリリース 11月、12月分

発表年月日	発表事項名	担当課
H23.11. 1	日本海の暫定水域周辺での韓国漁船の重点取締について	管理課
H23.11. 1	「太平洋クロマグロ仔稚魚分布調査」の結果について	漁場資源課
H23.11. 2	「2011年度第二期北西太平洋鯨類捕獲調査（秋季沿岸域調査）」の終了について	国際課
H23.11. 4	「太平洋広域漁業調整委員会」の開催及び一般傍聴について	管理課
H23.11. 4	第25回日口漁業専門家・科学者会議の開催について	漁場資源課
H23.11. 7	「南極の海洋生物資源の保存に関する委員会（CCAMLR）第30回年次会合」の結果について	国際課
H23.11. 9	「第12回日中漁業共同委員会」の結果について	国際課
H23.11.10	アメリカオアカイカ資源調査について	漁場資源課
H23.11.10	「大西洋まぐろ類保存国際委員会（ICCAT）第22回年次会合」の開催について	国際課
H23.11.11	「日・ミクロネシア漁業協議」の結果について	国際課
H23.11.11	「水産政策審議会第37回企画部会」の開催及び一般傍聴について	企画課
H23.11.14	「水産政策審議会第29回漁港漁場整備分科会」の開催及び一般傍聴について	計画課
H23.11.14	「第25回日口漁業専門家・科学者会議」の結果について	漁場資源課
H23.11.16	韓国はえ縄漁船の拿捕について	管理課
H23.11.17	「日本海・九州西広域漁業調整委員会」の開催及び一般傍聴について	管理課
H23.11.18	「第3回 漁港のエコ化推進のための技術検討会」の開催及び一般傍聴について	計画課
H23.11.18	「水産政策審議会第54回資源管理分科会」及び「一斉更新小委員会」の開催及び一般傍聴について	漁政課
H23.11.20	「大西洋まぐろ類保存国際委員会（ICCAT）第22回 年次会合」の結果について	国際課
H23.11.21	「第2回 日韓間海洋生物資源の持続的利用協議会」の開催について	国際課
H23.11.21	「第8回 日韓海洋生物資源専門家小委員会」の開催について	国際課
H23.11.21	筒井農林水産副大臣の国内出張について～独立行政法人水産大学の視察～	研究指導課
H23.11.25	平成23年度 日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報	漁場資源課
H23.11.28	「第2回 日韓間海洋生物資源の持続的利用協議会」の結果について	国際課
H23.11.28	「第8回 日韓海洋生物資源専門家小委員会」の結果について	国際課
H23.11.29	「日口漁業委員会 第28回 会議」の開催について	国際課
H23.11.29	第17回 日韓漁業取締実務者協議の開催について	管理課
H23.12. 2	第17回日韓漁業取締実務者協議の結果について	管理課
H23.12. 2	「水産政策審議会第38回企画部会」の開催及び一般傍聴について	企画課
H23.12. 8	「次期漁港漁場整備長期計画に関する技術検討会（総括）」の開催及び一般傍聴について	計画課
H23.12.12	「第13回日中漁業共同委員会第1回準備会合」の開催について	国際課
H23.12.12	「有明海及び八代海の再生に関する基本方針の一部改正（案）」についての意見・情報の募集（パブリックコメント）について	漁場資源課
H23.12.16	「第13回日中漁業共同委員会第1回準備会合」の結果について	国際課
H23.12.19	韓国はえ縄漁船の拿捕について	管理課
H23.12.20	「第3回日韓間海洋生物資源の持続的利用協議会」の開催について	国際課
H23.12.21	「メバチ混獲回避技術観測調査」の実施について	漁場資源課
H23.12.22	平成23年度 第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁況予報	漁場資源課
H23.12.22	「第4回ロシア水域における適正操業に関する検討チーム会合」の開催及び一般傍聴について	管理課
H23.12.22	「日口漁業委員会第28回会議」の結果について	国際課
H23.12.27	「第3回日韓間海洋生物資源の持続的利用協議会」の結果について	国際課

水産庁施策情報誌 漁政の窓

編集・発行 水産庁漁政部漁政課広報班

〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 合同庁舎1号館8階

代表 03-3502-8111（内線6505）

URL <http://www.jfa.maff.go.jp/>ご意見 ご質問はこちらへ → URL <http://www.maff.go.jp/j/apply/recp/index.html>